

3月13日に、まちなかウォークブル推進事業「那加 from Park 構想」の一環で開催された「那加デザインミーティングVol.5」に、私も参加しました。テーマは、「地域×企業で変わっていくまちの日常」です。

トークセッションでは、(株)良品計画、飛騨五木(株)にご登壇いただき、まちづくりに対する思いや企業が地域とつながることの意義などについて意見交換をしました。企業が日常的に地域と関わりを持つこと



魅力的な人材の確保につながる、そういったお話をお聞きできました。

その実現のためには、行政の役割も重要です。企業の皆さまのアイデ

アや発信力が活かされるよう、行政はその環境づくりに柔軟に取り組むことが大切で、点での取組が線となり、やがて面となり広がっていく、と考えています。

実際、学びの森・市民公園では、行政が公園のルールや使い方を柔軟に運用することで企業の面白い取組が実現し、その連携から新たな賑わいが生まれ始めました。企業と行政がおのおのの得意分野を生かし、「できない」ではなく「まずはやってみよう！」という意識で常識への挑戦を続けることで新たな化学反応が生まれる、そう再認識しました。

今後も、「各務原市となら何か面白いことが始められるかもしれない」、「各務原市で事業をやりたい」と思っていただけよう、皆さまの声に丁寧に耳を傾け、共にまちを創る「共創」の精神でまちづくりを進めてまいります。

Pick up ↑

注目の話題、気になる情報をお届けするコーナーです。今号は、防災の取組についてお知らせします。

もしもの時、あなたと家族を守る「自助」と「共助」について考えよう

災害から身を守るための3つの考え方に「自助」・「共助」・「公助」があります。しかし、大規模な災害が発生した直後は、行政や消防などによる「公助」の支援を受けられないことが考えられます。そこで大切になるのが、「自助」と「共助」という、皆さん自身の力です。

■まずは自分と家族を守る「自助」

「自助」とは、「自分の身は自分で守る」ことです。次のような家庭でできることから始めてみましょう。

- ▶家庭内備蓄をする
- ▶災害情報などを取得できるようにしておく
- ▶事前に家族との安否確認の方法や、避難場所を決める

■地域で支え合う「共助」

「共助」とは、「地域や身近な人たちで助け合う」ことです。

過去の災害では、救助を受けた方の多くは、近隣住民による声掛けや救助活動によって助けられました。

地域のイベントや活動に参加するなど、地域との関係性を築きましょう。

■いつものもしも CARAVAN

家族や友達と遊びながら「備え」を身近に感じられるイベントです。一緒に「もしも」を考えてみましょう。



日時 ▶ 5月23日(土) 11:00～16:00 ▶ 5月24日(日) 10:00～15:00

場所 市民公園(那加門前町3)、那加福祉センター(那加雲雀町)、勤労会館(那加雲雀町)

内容 まき割りとたき火、丸太切り体験、特殊車両の展示、災害AR体験、火災時の煙体験など

詳細 防災対策課 ☎ 058-383-1190